



# myLittleAdmin for SQL Server 2005

## Installation Guide

version 3.1

(インストールガイド 日本語版)

### 目次

概要.....	2
インストール要件 .....	2
インストールと設定 .....	2
表示言語の追加 .....	3
機能の有効化/無効化 .....	4
バックアップ/復元ウィザード(ホスティング向け) .....	5

## 概要

myLittleAdmin for SQL Server 2005 は Web ベースの MS SQL 2005 データベース管理ツールです。SQL 2005 で実装された新機能(データベーススナップショット、シノニム、資格情報など)を含む、ほぼすべての SQL Server オブジェクトを管理することが可能です。

## インストール要件

myLittleAdmin for SQL Server 2005 インストール要件:

- Microsoft Windows 2000, 2003 または XP Pro
- Microsoft IIS 5 以降
- Microsoft SQL Server 2005
- Microsoft .NET framework 1.1 または 2.0
- XHTML と CSS2 をサポートする Web ブラウザ

注意: Microsoft SQL Server 2000 には使用できません。

## インストールと設定

1. インストール用 .zip ファイルを、サイトのスコープに解凍します。サブフォルダも忘れずに解凍してください。
2. config.xml をメモ帳などのエディタで開き編集します(ルートフォルダに存在します)。
3. SQL Server の address("IP"、"ホスト名"、"ホスト名¥インスタンス名"など)と name (ログインページで表示される名前)を XML ドキュメント内の <sqlservers> ノードに入力します:

```
<sqlservers>
  <sqlserver address="127.0.0.1" name="localhost" />
  <sqlserver address="P27SRV¥SQL2K5" name="Prod. SQL Server" />
  ...
</sqlservers>
```

4. ライセンスファイル(license.config)を myLittleAdmin のルートフォルダにコピーします。

5. myLittleAdmin を .NET 2.0 ランタイムで動作させる場合、  
/bin/Framework2.0 の .dll ファイルを /bin フォルダにコピーします。
6. インストールフォルダを Web アプリケーションとして設定します (設定は、IIS マネージャまたはホスティングコントローラから実行します)。この設定権限がない場合、/bin フォルダのすべてのコンテンツを、Web サイトの /bin フォルダにコピーする必要があります。
7. 以下のアドレスから myLittleAdmin にアクセスできます。  
<http://www.yourServer.com/yourInstallFolder/>

## 表示言語の追加

myLittleAdmin for SQL Server 2005 はマルチランゲージをサポートしています。以下の手順で myLittleAdmin に言語を追加してください。

1. myLittleAdmin のルートディレクトリにある config.xml を編集します。  
<languages> ノードに新しい language culture と name を追加します。  
以下の例を参考してください:

```
<languages>
  <language culture="en-US" name="English" />
  <language culture="fr-FR" name="French" />
  <language culture="ja-JP" name="Japanese" />
  ...
</languages>
```

2. myLittleAdmin の /bin フォルダに新規フォルダを作成し culture 名と同じフォルダ名にします。例えば、日本語を追加する場合、ja-JP フォルダを新規に作成します。
3. myLittleAdmin の /bin フォルダにある strings.resources と compileRes.bat を上記 2. で作成した新規フォルダへコピーします。その後、strings.resource ファイルを strings.ResourceName.resources へ名前変更します。例: strings.ja-JP.resources
4. リソースエディタを使用してこのリソースファイルを編集します。以下のフリーツールを使用することができます。  
Resourcer for .NET by Lutz Roeder:  
<http://www.aisto.com/roeder/DotNet/>
5. リソースファイルを目的の言語に翻訳します。
6. 最後に、リソースファイルを .dll ファイルにコンパイルします。これには Framework SDK に含まれている Assembly Linker をインストールし

使用してください。以下のリンクからダウンロード可能です。

[http://msdn.microsoft.com/netframework/downloads/framework1\\_1/](http://msdn.microsoft.com/netframework/downloads/framework1_1/)

7. **compileRes.bat** ファイルを次のように編集します(ja-JP の例)。

```
C:¥WINNT¥Microsoft.NET¥Framework¥v1.1.4322¥al.exe
/embed:strings.ja-JP.resources,strings.ja-JP.resources
/out:strings.resources.dll /c:ja-JP
```

8. **compileRes.bat** をダブルクリックします。language フォルダに **strings.resources.dll** ファイルが作成されます。
9. myLittleAdmin へアクセスし、**Preferences** セクションから言語を選択します。

## 機能の有効化/無効化

myLittleAdmin のそれぞれの機能は有効化/無効化が可能です。以下の手順で設定できます。

1. **xml/profiles/default.xml** ファイルから設定できます。このファイルを編集します。
2. 有効化/無効化する機能を **true**(有効)または **false**(無効) で設定します。
3. myLittleAdmin へ再ログインします。

### 備考:

- **システムデータベース:** システムデータベースをリストから削除するには、**xml/treeviewdatabase.xml** を編集し、**D10** ノードを削除します。
- **セキュリティ:** ログイン/サーバーロール/資格情報などをリストから削除するには、**xml/treeviewsecurity.xml** を編集し、対象のノードを削除します。
- **サーバーオブジェクトの項目:** バックアップデバイス/リンクサーバー/トリガをリストから削除するには、**xml/treeviewserverobjects.xml** を編集し、対象のノードを削除します。

## バックアップ/復元ウィザード(ホスティング向け)

myLittleAdmin for SQL Server 2005 version 3.1 には、ホスティング向けに、2つの新しいウィザードが追加されました。このウィザードを利用するとユーザーはデータベースのバックアップをユーザーのローカル PC 上にダウンロードでき、さらにそのバックアップファイルをローカル PC からサーバーにアップロードすることでデータベースを復元することができます。

1. myLittleAdmin のルートフォルダにある **config.xml** を開き、**<tools>** セクションに移動します。

```
<tools>
  <backupwh
    backupfolder="%%Server%dbbackup%"
    backupurl="http://myLittleAdmin.webhost.com/dbbackup"
  />
  <restorewh
    uploadfolder="%%Server%dbupload%"
    deleteafterrestore="true"
  />
</tools>
```

2. **<backupwh>** セクションでバックアップウィザード、**<restorewh>** セクションで復元ウィザードの設定をします。
3. **backupfolder** のプロパティで、バックアップファイル保存先のフルパスを指定します。SQL Server はこのフォルダへアクセスすることができ、かつ書き込みの権限が必要になります。IIS と SQL Server が同じ筐体でない場合、UNC パスを指定する必要があります。
4. **backupurl** のプロパティでは、**backupfolder** で設定したパスへの URL を指定します。これには IIS コンソールで myLittleAdmin 仮想ディレクトリの新しい仮想フォルダを定義する必要があります。なおセキュリティのため、「ディレクトリの参照」項目のチェックは外してください。
5. **uploadfolder** のプロパティで、ユーザーのバックアップファイルをアップロードする場所のフルパスを指定します。SQL Server はこのフォルダへアクセス可能でなければなりません。ASPNET ユーザーはこのフォルダに対して、読み取り/書き込みの権限が必要です。IIS と SQL Server が同じ筐体でない場合、UNC パスを指定する必要があります。

6. **deleteafterrestore** のプロパティでは、アップロードしたファイルをデータベース復元後に削除するには **true** を、削除しない場合は **false** を設定してください。

**注意:**

- セキュリティのため、アップロードしたバックアップファイルは復元前にリネームされます。
- バックアップファイルはダウンロード後も削除されません。ディスクスペースを空けるために手動で削除する必要があります。
- 復元ウィザードでは、単体行構造のファイルのみ復元できます。
- データベースを復元するため、myLittleAdmin はデータベースへのアクセスを **SINGLE\_USER** に制限します。復元処理終了後、アクセス制限は **MULTI\_USER** に戻されます。復元に失敗したとき、次の T-SQL クエリを使用してアクセス制限を手動で **MULTI\_USER** に戻してください  
**ALTER DATABASE [dbName] SET MULTI\_USER**